【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成23年3月10日(2011.3.10)

【公開番号】特開2011-18084(P2011-18084A)
【公開日】平成23年1月27日(2011.1.27)
【年通号数】公開・登録公報2011-004
【出願番号】特願2010-240295(P2010-240295)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｆ　1/1343　(2006.01)
Ｇ０２Ｆ　1/1368　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｆ　1/1343
Ｇ０２Ｆ　1/1368

【手続補正書】
【提出日】平成22年12月10日(2010.12.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
そこで、本発明は、画素電極とデータラインとの間の短絡が生じにくい液晶表示素子を提供することを目的とする。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
上記目的を達成するために、請求項１に記載の発明は、第１の基板と第２の基板との間に配置された液晶層と、前記第１の基板に第１の層として形成された画素電極と、前記第１の基板に前記第１の層とは異なる第２の層として形成された共通電極と、前記画素電極に隣接する第１の領域が第１の方向に直線状に延伸するように形成されたデータラインと、を備え、前記画素電極と前記第１の領域とが同一面上に形成されている液晶表示素子であって、前記共通電極は、前記画素電極と重なる領域に、領域全体が前記画素電極に重なる第１のスリットが設けられ、前記第１のスリットは、前記第１の方向に対して傾斜した第２の方向に直線状に延伸する第２の領域を有し、前記画素電極は、前記第１の領域に隣接するとともに前記第２の領域に隣接するエッジが、前記第２の領域に対して平行に沿うように形成されていることを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
請求項２に記載の発明は、請求項１に記載の液晶表示素子において、前記第１のスリットは、前記第１の方向に対して直交する方向を軸として、前記第２の方向に線対称な、第３の方向に延伸する第３の領域を有し、前記画素電極は、前記第１の領域に隣接するとと

もに前記第３の領域に隣接するエッジが、前記第３の領域に対して平行に沿うように形成されていることを特徴とする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
請求項３に記載の発明は、請求項２に記載の液晶表示素子において、前記第１のスリットは、前記第２の領域に対して前記第３の領域が分離されていることを特徴とする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
請求項４に記載の発明は、請求項３に記載の液晶表示素子において、前記共通電極は、前記画素電極と重なる領域に、領域全体が前記画素電極に重なる第２のスリットが設けられ、前記第２のスリットは、前記第２の領域に対して平行に延伸する第４の領域と、前記第３の領域に対して平行に延伸するとともに前記第３の領域と連通する第５の領域と、を有していることを特徴とする。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
本発明によれば、画素電極とデータラインとの間の短絡を生じにくくすることができる。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】

【請求項１】
第１の基板と第２の基板との間に配置された液晶層と、
前記第１の基板に第１の層として形成された画素電極と、
前記第１の基板に前記第１の層とは異なる第２の層として形成された共通電極と、
前記画素電極に隣接する第１の領域が第１の方向に直線状に延伸するように形成されたデータラインと、
を備え、
前記画素電極と前記第１の領域とが同一面上に形成されている液晶表示素子であって、
前記共通電極は、前記画素電極と重なる領域に、領域全体が前記画素電極に重なる第１のスリットが設けられ、
前記第１のスリットは、前記第１の方向に対して傾斜した第２の方向に直線状に延伸する第２の領域を有し、
前記画素電極は、前記第１の領域に隣接するとともに前記第２の領域に隣接するエッジが、前記第２の領域に対して平行に沿うように形成されている、液晶表示素子。
【請求項２】
前記第１のスリットは、前記第１の方向に対して直交する方向を軸として、前記第２の方向に線対称な、第３の方向に延伸する第３の領域を有し、
前記画素電極は、前記第１の領域に隣接するとともに前記第３の領域に隣接するエッジが、前記第３の領域に対して平行に沿うように形成されている、請求項１に記載の液晶表示素子。
【請求項３】
前記第１のスリットは、前記第２の領域に対して前記第３の領域が分離されている、請求項２に記載の液晶表示素子。
【請求項４】
前記共通電極は、前記画素電極と重なる領域に、領域全体が前記画素電極に重なる第２のスリットが設けられ、
前記第２のスリットは、前記第２の領域に対して平行に延伸する第４の領域と、前記第３の領域に対して平行に延伸するとともに前記第３の領域と連通する第５の領域と、を有している、請求項３に記載の液晶表示素子。